

基本理念

前章までに明らかになった課題を踏まえ、函館市の有する魅力の活用や将来動向を勘案しながら、函館市が目指す10年先の観光都市の姿を基本理念として設定します。

函館市の有する魅力は、観光に係る豊富な人材、市民主催の活気あるイベント、異国情緒あふれる歴史的まち並み、さまざまな文化遺産、美しい自然、豊かな温泉など、人・まち・文化に至る豊富な魅力を有していることであり、こうした豊富な魅力の活用が函館市においては可能かつ重要であると捉えます。

函館市の将来動向については、外国人観光客の増加、北海道新幹線の平成27年度開業、再来訪者の増加などがあり、観光を取り巻くこれら動向への対応が求められます。

こうした背景に基づき、本市の観光基本計画における基本理念では、人・まち・文化に至るまで豊富な魅力を、キラキラと輝く宝石のような観光資源がぎっしり詰まった「宝石箱」として捉え、次の10年間にに向けて既存の観光資源をさらに磨き上げ、新たな観光資源も加えながら、絶えず進化する国際観光都市・函館を目指すこととします。

「宝石箱」の中には、ゴミがあつたり、宝石に汚れや曇りがあつたりしてはいけません。いつもきれいに輝いていられるよう、このまちに住む住民ひとりひとりが、普段からその宝石を絶えずきれいに保つ努力をしていくことが必要です。それと同時に、先人たちが大事に守り、後世に伝えてきた「宝石箱」の中に、今もこうして居続けられているという感性を、地域住民全体で共有しようというメッセージが込められています。

以上のような考えを内包する基本理念（目指すべき10年先の観光都市の姿）を次のように設定します。

人・まち・文化の宝石箱 新・国際観光都市 函館へ
～様々な魅力がぎっしり詰まった新時代へ向けた観光都市の創造～

施策展開の基本方針

基本理念を実現させるための基本的な方向性として、以下の3つの方針を設定し、施策を展開します。

交流・賑わいの促進

- ・市民も観光客も共に集い、楽しみ、さまざまな交流が生まれ、賑わいあるまちになるような施策を展開します。

おもてなし・満足度の向上

- ・函館市へ訪れる観光客へのおもてなしに優れ、函館市に訪れる観光客の満足度が極めて高いまちになるような施策を展開します。

国際化の促進

- ・海外からの観光客が安心して観光を楽しめ、また世界を代表するような観光都市のひとつを目指すような施策を展開します。

基本方針を読み解くキーワード

3つの基本方針を実現する取組みとして、次のようなキーワードを設定します。これらのキーワードによって、具体的な施策を導いていきます。

①函館ブランド

- ・異国情緒溢れる街並みや歴史的建築物の保存活用、地域性を活かした函館ならではの観光メニューの創出などにより、「憧れ」と「身近さ」を兼ね備えた、市民が自慢できる函館ブランドの確立に取り組みます。

②おもてなしの心

- ・市民全体でのおもてなしの充実をはじめ、観光情報受発信環境の充実、ユニバーサルデザインの推進、LCCやクルーズ船への対応を視野に入れた空港・港湾機能の充実など、受け入れ体制の充実を図ります。
- ・北海道新幹線の新函館駅開通による観光入込客数の増加に対応すべく、函館の顔にふさわしい中心市街地の賑わい創出、効果的なPR活動、新函館駅とのアクセス性の向上などに取り組みます。
- ・本市を訪れる外国人旅行者が安心してスムーズに観光ができるよう、それぞれの国や地域のニーズに対応した受入機能の充実を図ります。
- ・観光客をもてなすホスピタリティ意識の醸成、人材の育成などにより、国内外からの観光客に感動を与えられるよう、街を挙げてのホスピタリティの向上に努めます。

③もう一泊への工夫

- ・観光メニューの充実、秋冬の魅力の向上、観光情報の充実などにより、本市へ訪れる観光客の宿泊日数の増加を図るなど、滞在型観光の促進を図ります。
- ・既存観光資源の再整備をはじめ、新たな観光資源の創出、既存イベントの見直しによる魅力向上などによる観光資源の充実に取り組みます。

④もっと函館に観光客を

- ・北海道新幹線の開業を見据えた東北・北関東・首都圏ならびに東南アジア等の誘客が期待できる海外における誘客宣伝活動をはじめ、MICE、修学旅行、大型客船運航船会社、LCC航空会社などを対象とした宣伝誘致活動などに取り組みます。

⑤MICE (Meeting、Incentive、Convention、Exhibition/Event)

- ・函館アリーナの建設をはじめ、受け入れ施設などに関する情報提供や誘致宣伝活動、各種支援サービスやMICE機能の強化を図ります。

施策

施策設定の基本的考え

- ・各施策を構成する具体的取組みは、今後の観光を取り巻く社会情勢の変化を見ながら、柔軟かつ効果的に実施することとします。
- ・具体的取組みの実施主体は、同じく今後の観光を取り巻く社会情勢の変化を見ながら、函館市を中心に、関係団体・関係機関と調整しつつ柔軟かつ効果的に設定します。特に、市民参画が可能なものについては、積極的に市民との協働を図ります。
- ・今後とも函館観光の振興に欠くことのできない重要な施策は再構成のうえで継承します。本計画の基本理念に基づく基本方針の実現および目標値の達成を図るため、実効性に留意し、高い効果が見込まれる具体的取組みについて優先的に着手します。
- ・10年を計画期間とし、5年が経過した段階において進捗状況や方向性などについての中間評価を実施します。
- ・実施時期は、「前期」はおおむね前期5年以内に実施、「後期」はおおむね後期5年以内に実施、「通年」は計画期間を通して実施することを示しています。

施策および具体的取組み

以上の考え方にに基づき、基本方針とキーワードに関連する詳細な施策および各施策を構成する具体的な取組みを次のように設定します。

○街並み・歴史的建築物の保存活用の推進

具体的取組み	概要	実施時期
旧函館区公会堂の保存修理	重要文化財旧函館区公会堂の保存活用計画の策定と保存修理の実施	前期
補助制度の見直し	西部地区歴史的町並み基金による補助制度を見直し、効果的な補助のあり方の検討	前期
西部地区空家・空地相談室の推進	西部地区における既存の空き家・空き地解消の取組みに加え、民間主体による未流通空き家の利活用の推進	通年
環境美化に関する活動の推進	ボランティア制度を活用した簡易清掃や貼り紙の除去など、きれいな街並みの維持に関する活動の推進	通年
美しいまちづくり検討会との連動	美しいまちづくり検討会の空間形成コンセプトに基づいた都市デザインの推進	通年
景観アドバイザー制度の活用	施設の改修・新設にあたる、景観アドバイザー制度の積極的な活用	通年

○新たな観光資源の創出

具体的取組み	概要	実施時期
新たな観光資源の創出と活用	歴史、文化、自然など、潜在する新たな観光資源の創出と活用	通年
函館10景の選定とPR	市内全域を対象に、夜景10景、歴史10景、自然10景などの選定と、市内移動促進などのためのPRの実施	後期
自然景観の眺望点の保全・整備	函館山はじめ恵山、太平洋、津軽海峡など良好な自然景観の眺望点の保全・整備	後期
既存観光資源等の再整備の推進	既存の観光資源やその周辺など、雰囲気、景観、歴史などを活かし、さらなる魅力向上を図るための再整備の推進	後期
渡島東部を含む道南周遊ルート	渡島東部4町村との合併により加わった新たな観光資源を活用した、道南エリアを巡る広域周遊ルートの創出	前期

○アートディレクション機能の充実

具体的取組み	概要	実施時期
函館ロゴマークの活用	ポスター、パンフレット、グッズ、ホームページ、各種事業など、多方面にわたる函館ロゴマークの活用推進	通年
視覚的にわかりやすい案内板・標識の設置	ピクトグラムなど、観光関連施設を対象とした、ユニバーサルデザインに基づく、誰にでも分かる視覚的な案内板・標識の整備	後期
だれでも利用できる施設への改善	観光関連施設を対象とした段差の解消、スロープの設置、手すりの設置、点字表記などの促進	通年
デザインの統一	案内板や標識など、各種デザインの共通化に向けた検討	通年

○観光メニューの充実

具体的取組み	概要	実施時期
ニューツーリズムの推進	函館市ならではの体験型観光、産業観光、エコツアー、食・学び・癒し・遊び、沿道景観などを活かした、市民も観光客も共に楽しめるニューツーリズムの推進	通年
MICE や外国人観光客の誘致を目的とした観光メニューの作成	縄文文化交流センター、熱帯植物園、アイヌ文化、道の駅、昆布漁漁村集落、恵山、温泉などの、多様な観光資源を活用した MICE や外国人観光客の誘致を目的とした観光メニューの作成	前期
まちあるき観光の充実	既存のまちあるきイベント「てくてくはこだて」を基本とした、まちあるき観光メニューの充実	前期
修学旅行向け体験メニューの充実	宿泊施設や体験メニュー提供施設などと連携した、修学旅行向け体験メニューの充実	前期
函館まちあるきマップの拡充	音、匂い、季節毎の風景などの情報を既存コースへ追加掲載することを検討 期間限定の特別コースの新設などによる、まちあるきマップの拡充	前期
夜の観光メニューづくり	気軽に飲み歩きができるなど、市民とのふれあいがある観光メニューづくり	通年

○秋冬の魅力の向上や発信

具体的取組み	概 要	実施時期
秋冬の魅力の発掘	外部専門家あるいは、道外住民、異なる国や地域の外国人をモニターとした秋冬の魅力の発掘	前期
秋冬のイベントの見直しと魅力向上	秋冬の一層の観光客誘致や滞在日数の増加を図るため、秋冬に開催される既存イベントの見直しと魅力の向上	前期
秋冬の魅力情報の発信	誘致効果の高い国や地域へ向けた秋冬の魅力情報の発信	通年
秋冬観光の重点的PRの実施	秋冬の一層の観光客誘致や滞在日数の増加を図るため、秋冬観光の重点的PRの実施	通年

○魅力ある食・土産品の創造および周知

具体的取組み	概 要	実施時期
幅広い食の周知	市民に支持されている隠れた飲食店や料理など幅広い食の周知	通年
食・土産品創造の促進	函館ならではの魅力ある食・土産品創造の促進	通年
地場産品販売の促進	インターネット等を通じた地場産品販売の促進	通年
物産展の開催	国内外の誘致・宣伝効果が期待できる市場における物産展の開催	通年
グルメイベントの開催・PR	地場産品等のPRを目的としたグルメイベントの開催	通年
G-site（五稜郭グルメ村）の整備	食をテーマとした新たな飲食モールの整備	前期

○市民全体での盛り上げ

具体的取組み	概 要	実施時期
交流イベント開催の促進	観光客と市民が交流できる、市民参加型の交流イベント開催の促進	通年
沿道花いっぱい運動の実施	官民一体となった沿道の植樹ますの花植えや維持管理の実施	通年
歓送迎イベントの実施	寄港・出港する旅客船や、北海道新幹線開業時の市民参加による歓迎イベントの実施	前期

○ホスピタリティ意識の醸成および顕在化

具体的取組み	概 要	実施時期
接遇研修等の充実	観光関連従事者を対象とした、時代のニーズに対応した接遇研修等の充実をはじめ、国・地域別の外国人旅行者ニーズに対応した各種研修等の充実	通年
国際交流の支援	国際交流関係事業への支援や、小学生を対象とした国際交流の支援（子ども用の指さし会話シートなどの配布）	前期
多言語による表記や放送の普及促進	観光関連施設での多言語による案内表記や放送の普及促進、言語別指さし会話帳の作成と普及	前期
まちあるき休憩ベンチの設置	市民や観光客のまちあるきの利便性を高めるため、景観にも配慮した休憩ベンチの設置	前期

○人材の育成

具体的取組み	概 要	実施時期
観光ボランティア団体の活動促進	新たなボランティアとの連携、観光ボランティア団体への助成、研修支援などによるボランティア活動の促進	前期
「函館歴史文化観光検定」の普及・検定合格者の活躍促進	多様な媒体を通じた紹介などによる「函館歴史文化観光検定」の普及および検定合格者の観光関連事業への参画、活躍の場の提供	通年
有償観光ガイドの育成	観光客の満足度をより一層高めるため、各種ガイドのプロ化実現をめざした、有償観光ガイドの育成	後期
通訳ガイドの育成	外国人観光客へのきめ細やかな対応が可能な、通訳ガイドの育成	前期

○着地後の観光情報の充実

具体的取組み	概 要	実施時期
多言語表記・対応の充実	観光情報の多言語表記や、「はこぶら」内の外国語サイトの充実、観光案内所における多言語、多文化への対応	前期
カード利用可能情報の提供	電子マネーやクレジットカードが利用可能な施設や海外クレジットカードで現金が引き出せるATM情報などの提供	前期
テーマ別観光情報の発信	秋冬観光、滞在観光、国・地域別、観光客、ビジネス客、富裕層、高齢世代などテーマ別の観光情報の充実	通年
Wi-Fiの推進	交通拠点、観光施設、商業施設、路面電車内、停留所などのWi-Fi利用環境の整備と、利用可能箇所の情報提供	前期
観光パンフ等提供場所の拡大	紙媒体の観光情報が入手できる場所の拡大	前期
（仮称）観光センターの整備検討	新幹線開業を見据えた、函館観光のワンストップサービス機能を持った拠点施設の整備について検討	前期
函館市まちかど観光案内所の充実	函館市まちかど観光案内所の周知と機能の拡大	前期

※着地：旅行者を受け入れる地域のこと。逆に、旅行者が出発する地域を発地という。

着地後とは、函館に旅行者が到着した後のことを指す。

○多様な媒体を通じた情報の発信

具体的取組み	概 要	実施時期
電子媒体を通じた情報発信	インターネットなどを通じた情報発信の充実	前期
紙媒体を通じた情報発信	新聞、雑誌など紙媒体への情報発信	通年
無線媒体を通じた情報発信	テレビ、ラジオなど無線媒体への情報発信	通年
宿泊施設を通じた観光情報発信	滞在客や再来訪客などタイプ別観光客のニーズを想定した宿泊施設による観光情報の発信	通年

○市内交通アクセス性の向上

具体的取組み	概 要	実施時期
リレー列車運行の要請	新函館駅における同一ホームでの対面乗換え方式によるリレー列車運行の要請	前期
高速交通ネットワークの整備促進	新函館駅にアクセスする函館新外環状道路など高速交通ネットワークの整備促進	前期
パーク&ライド駐車場の整備	既存スペースを利用した、まち歩き観光用のパーク&ライド駐車場の整備	後期

○空港・港湾機能の充実

具体的取組み	概 要	実施時期
国際線航路の拡充促進	新規路線の開設やチャーター便の運航拡大、LCC参入の促進など国際線航路の拡充促進	通年
国内線航路の拡充促進	新規路線の開設、既存路線の充実、休止路線の再開促進、LCC参入の促進など国内線航路の拡充促進	通年
出入国手続きの改善	C I Q (CUSTOMS, IMMIGRATION, QUARANTINE) 体制の充実や国際線ターミナルビルの整備促進	?
大型旅客船ふ頭の整備推進	観光客と市民の交流拠点、市民のくつろぎの空間となるような大型旅客船ふ頭の整備推進 (若松地区)	?
親水空間の整備推進	みなとや海に接することができる親水プロムナードの整備および歴史的港湾施設の保存修復 (弁天地区、末広地区)	?
旧函館ドック跡地の整備推進	市民や観光客が「海」と「科学」にふれあうことができる、水産海洋分野の新しい形の研究施設の整備推進	?
緑の島の整備推進	西部地区の都市空間形成コンセプトに配慮した整備の推進	?

○周遊性の向上

具体的取組み	概 要	実施時期
はこだてチケットの利用促進	はこだてチケットの充実と継続的販売	通年
スタンプラリーの実施	市内全域の主要な観光関連施設あるいは前掲の函館10景を対象としたスタンプラリーの実施	後期
貸し自転車の利用促進	電動アシスト付き自転車レンタルサービスの周知と、乗り捨て可能など利便性の向上	後期
超小型電気自動車の利用検討	超小型電気自動車レンタルサービス導入の検討	後期
広域観光移動の促進	東北地域や道央と連携した広域周遊ルートの創出とPR	前期

○MICE受け入れの強化

具体的取組み	概 要	実施時期
函館アリーナの建設	スポーツイベント、コンベンション、会議等に対応できる新たな施設の整備・活用	前期
ガイドブック配布の強化	コンベンション等の開催可能な市内施設を記載したガイドブック配布の強化	前期
割引パスポートの充実	割引対象施設の拡大や割引内容の向上など、割引パスポートの充実	前期
MICE対応窓口の強化	MICEをはじめとして、宿泊施設、観光、食事、交通などMICE主催者に対応する窓口の強化	前期
エクスカーションコースの充実	縄文文化や豊かな資源景観に恵まれた渡島東部4地域を巡るエクスカーションコースの創出	前期
宿泊拠点となる湯の川地区の整備	湯の川地区の宿泊施設におけるコンベンション等参加者の受入体制の強化	通年
ユニークベニューの活用	公共施設や公共空間等のユニークベニューの活用	後期

※ユニークベニュー：歴史的建造物、文化施設や公的空間で、会議・レセプションを開催す

ることで、特別感や地域特性を演出できる会場。

○祝祭都市に向けた取組み

具体的取組み	概 要	実施時期
各種イベントの観光資源化	バル街、はこだて国際民俗芸術祭、函館野外劇、はこだて国際科学祭など、函館でしか味わえない、または函館発祥のイベントの宣伝を強化	通年
各種イベントの支援	各種イベントに対する物心両面の支援	通年

○誘致宣伝活動の実施

具体的取組み	概 要	実施時期
国内外での誘致宣伝活動の実施	東北・北関東・首都圏のほか、東南アジア地域を中心とした海外での誘致宣伝活動の実施	通年
M I C E の誘致宣伝活動の実施	MICE 開催予定の企業への個別誘致の実施	通年
修学旅行の誘致宣伝活動の実施	宿泊施設、教育・文化施設、体験施設などとの連携による修学旅行の誘致宣伝活動の実施	通年
寄港要請活動の実施	運航船会社やLCC航空会社等に対する寄港の要請活動の実施	通年
「はこだてフィルムコミッション」の活用	「はこだてフィルムコミッション」のおすすめロケ地などの一層の充実や、過去に撮影された映画の活用	通年
広域的宣伝誘致活動の実施	東北地域や道央との共同によるPR活動やイベント開催およびみなみ北海道全体のPR活動や宣伝	通年
市民参加型観光プロモーションの実施	「函館歴史文化観光検定」合格者など市民参加の観光プロモーションの実施	通年

○函館駅前・大門地区の活性化

具体的取組み	概 要	実施時期
駅前環境美化の推進	函館駅前広場における色彩豊かな草花による花壇等の整備	通年
グリーンプラザや市道広小路の整備	駅前通との連続性を考慮しつつ、観光名所・イベント機能も兼ね備えた賑わい交流空間としての整備	前期
はこだておもしろ館の整備	函館駅前若松地区市街地再開発ビル内に、市民や観光客が様々な分野の情報等を体験し交流を深める施設の整備	前期

○観光関連調査の充実

具体的取組み	概 要	実施時期
観光アンケート調査の実施	観光アンケート調査の継続実施	通年
外国人旅行者ニーズ調査の実施	外国人旅行者の国・地域別の魅力ある観光資源の把握やニーズの顕在化、“売り”の分析	通年
観光客満足度調査の実施	観光客の満足した点、不満だった点に関する調査を実施	通年
観光に関する統計資料の充実	観光動向の把握に必要と思われる調査の実施による統計資料の充実	通年

○観光アドバイザー会議の設置

具体的取組み	概 要	実施時期
観光アドバイザー会議の設置(継続)	有識者、観光関連事業者等で構成される観光アドバイザー会議による進捗状況の管理	通年